

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1612 号

Decreased serum anti-Müllerian hormone level is associated with deficient of 25-hydroxyvitamin D level and body fat percentage in women of reproductive age

(生殖可能年齢女性では抗ミュラー管ホルモン値は体脂肪率および血清 25 ビタミン D 値と関連する)

本田 由佳 (ほんだ ゆか)

博士 (医学)

論文内容の要旨

近年、本邦では女性の社会進出、晩婚化の影響により高齢出産が増加し少子化に拍車がかかると同時に、不妊治療患者が増加している。さらに出生体重はこの 10 数年間次第に減少していることが知られている。この出生体重減少の原因には、女性の妊娠前から妊娠中を通しての栄養不足が影響し、特に若年女性の間で認める妊娠前からのやせ体型の増加も理由の一つと考えられる。また、最近では「成人病胎児期発症説」(Barker 仮説)によって子宮内胎児の栄養状態の重要性が再認識されるようになり、妊娠前の女性の栄養管理について重要視されてきているが、日本での研究は少ない。

本研究では、妊娠前女性を対象として、生殖予備能評価として注目されている抗ミュラー管ホルモン (AMH) を測定し、それと体格および血液栄養解析検査を行い、AMH 低下者が置かれているライフスタイルの現状を明らかにした。本研究において日本人生殖可能女性において血清ビタミン D が低値であると血清 AMH も低値であり、30 歳未満では血清 AMH と体脂肪率に正の相関が認められた。すなわち、やせ体型やビタミン D 不足は卵巣予備能低下の一因となる可能性が示唆され、妊娠前女性の適切な栄養摂取や適正体脂肪が卵巣予備能の維持に重要であることが考えられた。